



注文の多い料理店（21）

「ネクタイピン、カフスボタン、
眼鏡、財布、その他金物類、こと
に尖ったものは、みんなここに置
いてください」

と書いてありました。扉のすぐ横
には黒塗りの立派な金庫も、ちゃ
んと口を開けて置いてありました。
鍵まで添えてあったのです。

「ははあ、何かの料理に電気をつ
かうと見えるね。金氣のものはあ



注文の多い料理店（22）

ぶない。ことに尖ったものはあぶ
ないと斯う云うんだろう。」

「そうだろう。して見ると勘定は
帰りにここで払うのだろうか。」

「どうもそうらしい。」

「そうだ。きっと。」

二人はめがねをはずしたり、
カフスボタンをとったり、みんな
金庫のなかに入れて、ぱちんと錠
をかけました。



注文の多い料理店（23）

すこし行きますとまた扉があつて、その前に硝子の壺が一つありました。扉には斯う書いてありました。

「壺のなかのクリームを顔や手足にすっかり塗ってください。」

みるとたしかに壺のなかのものは牛乳のクリームでした。

「クリームをぬれというのはどういうんだ。」



注文の多い料理店（24）

「これはね、外がひじょうに寒い
だろう。室のなかがあんまり暖い
とひびがきれるから、その予防な
んだ。どうも奥には、よほどえら
いひとがきている。こんなところで、
案外ぼくらは、貴族とちかづきに
なるかも知れないよ。」

二人は壺のクリームを、顔に
塗って手に塗ってそれから靴下を
ぬいで足に塗りました。それでも



注文の多い料理店（25）

まだ残っていましたから、それは
二人ともめいめいこっそり顔へ塗
るふりをしながら食べました。

それから大急ぎで扉を開けます
と、その裏側には、

「クリームをよく塗りましたか、
耳にもよく塗りましたか。」

と書いてあって、ちいさなクリ
ームの壺がここにも置いてありま
した。

つづく